

ダイヤモンド就活ナビ2023

モニターレポート 12月調査



【 調査概要 】

- 調査対象 / 2023年3月卒業予定の大学院生・大学生
- 有効回答 / 642名
- 調査期間 / 2021年12月1日(水)～2021年12月8日(水)
- 調査方法 / WEB入力フォームより回答

■ モニターレポート 12月調査内訳

文理	文系:76.2% 理系:23.8%
エリア	北海道:6.1% 東北エリア:0.9% 関東エリア:57.9% 甲信越エリア:0.9% 東海・北陸:2.8% 関西エリア:21.0% 中四・国圏エリア:8.4% 九州・沖縄エリア:1.9%
回答の多かった大学	中央大学 早稲田大学 関西学院大学 日本大学 國學院大學 成蹊大学 東洋大学 岡山大学 関西外国語大学 慶應義塾大学 同志社大学 和歌山大学 立教大学 法政大学 東京理科大学

トピックス

1 インターンシップ類参加状況

インターンシップ類へ参加した学生は71.1%(22卒)から78.5%(23卒)に増加。インターンシップ類は就活の入り口として定着か。

2 インターンシップ類選考状況

「選考に参加した」学生は73.8%で、選考方法は「エントリーシート」(96.0%)、「適性テスト」(73.0%)、「動画選考」(55.6%)の順に。

3 選考状況

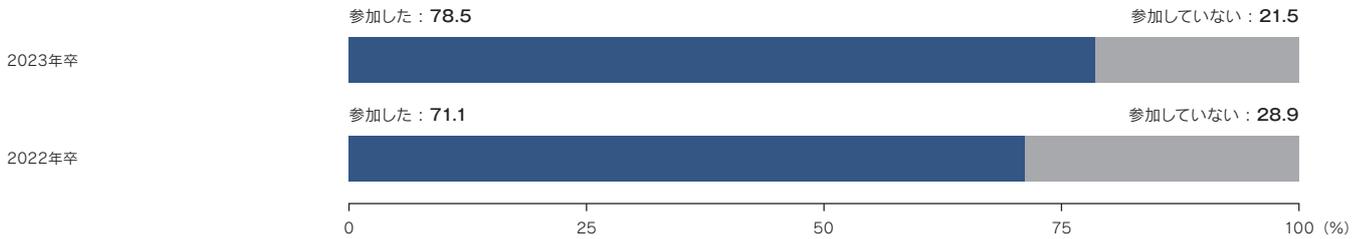
既に「一次面接」に進んでいる学生が45.5%(22卒)→60.0%(23卒)と大幅にポイントアップし早期化の傾向。

4 就活観

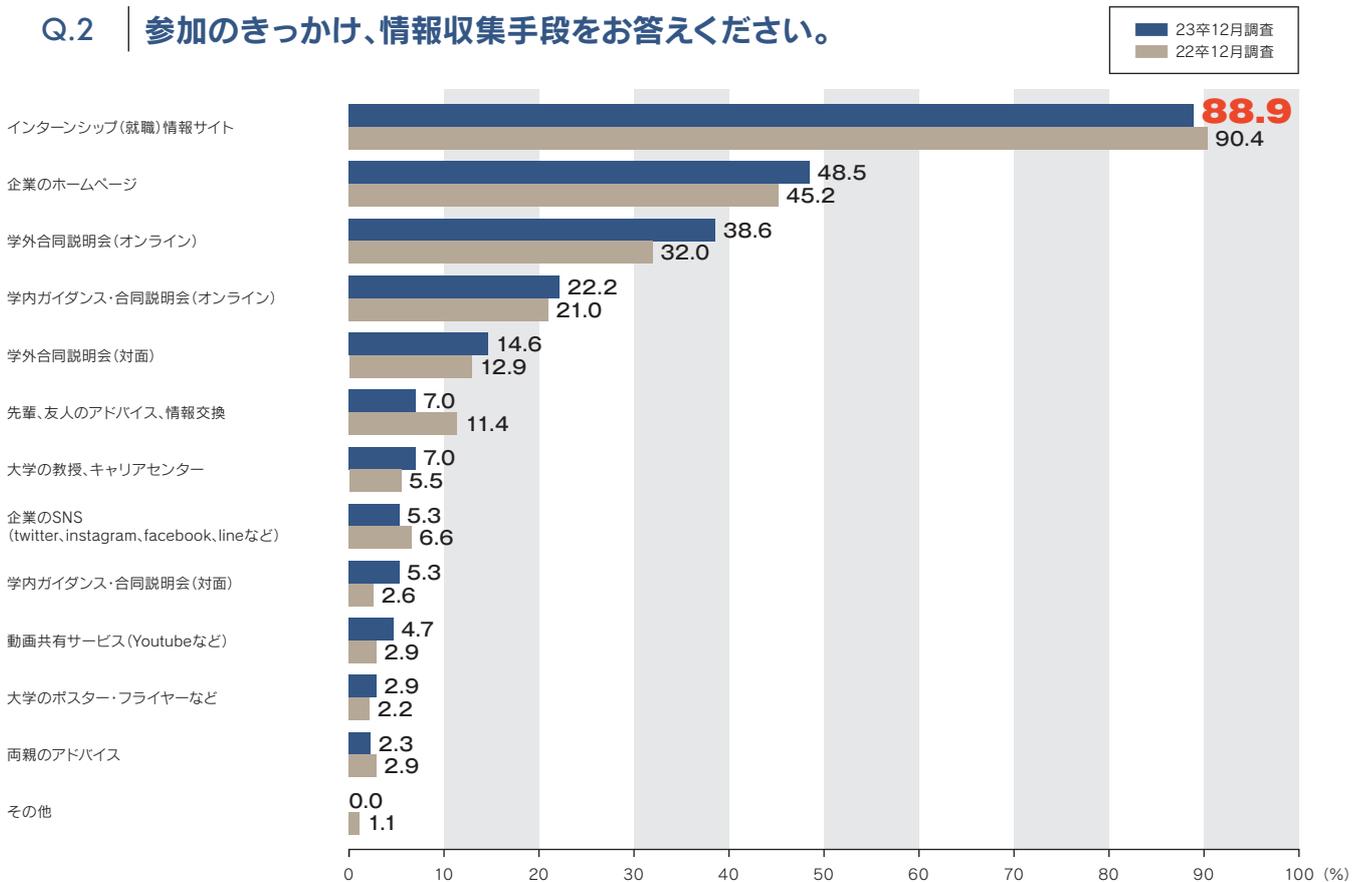
「展望が見えず悲観的だ」は30.9%(22卒)→23.3%(23卒)と低下するものの、経済不安から大手優先の傾向あり。

1 インターンシップ類参加状況

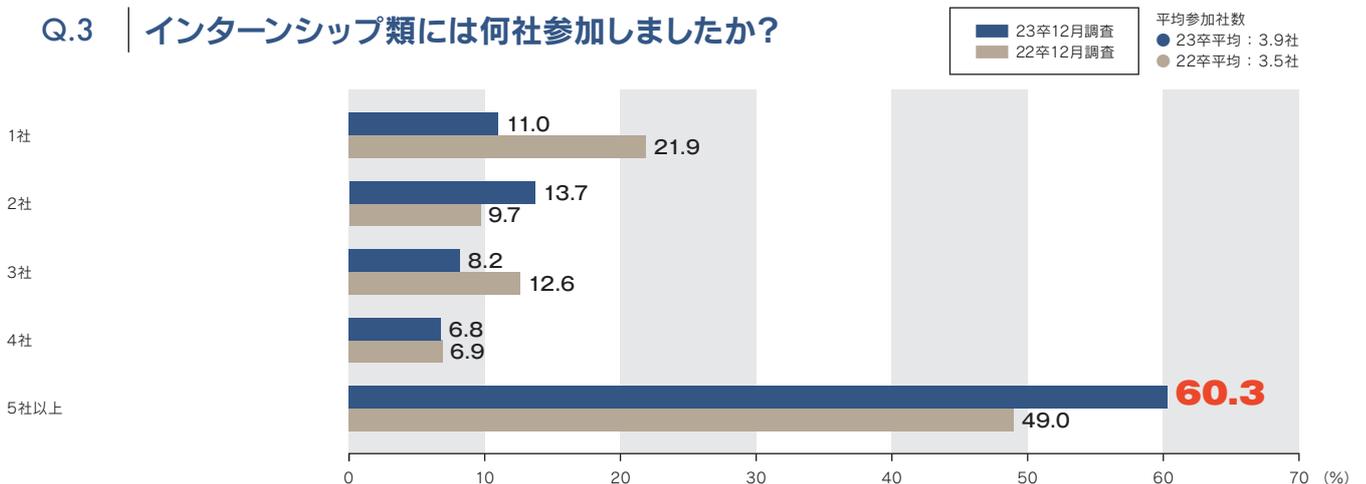
Q.1 | 今年度の企業主催のインターンシップに参加しましたか？



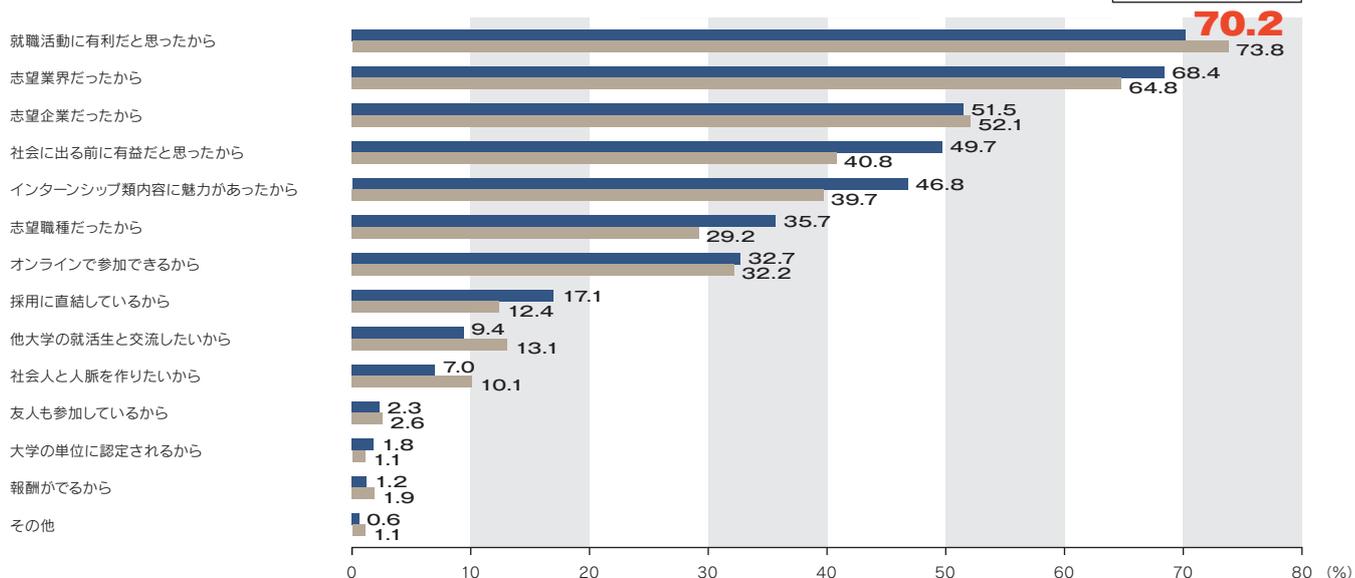
Q.2 | 参加のきっかけ、情報収集手段をお答えください。



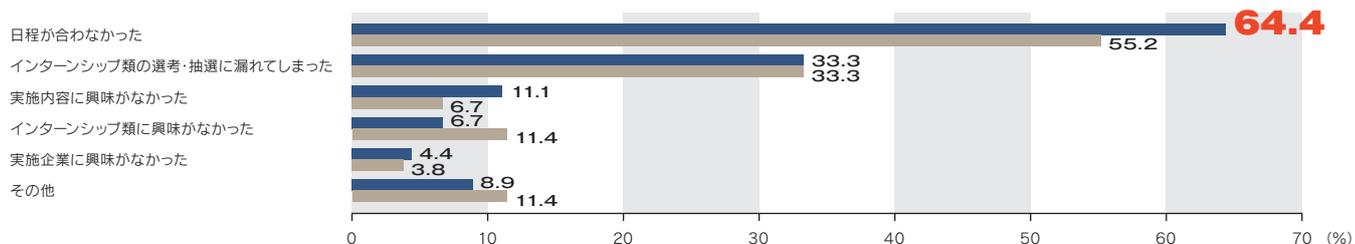
Q.3 | インターンシップ類には何社参加しましたか？



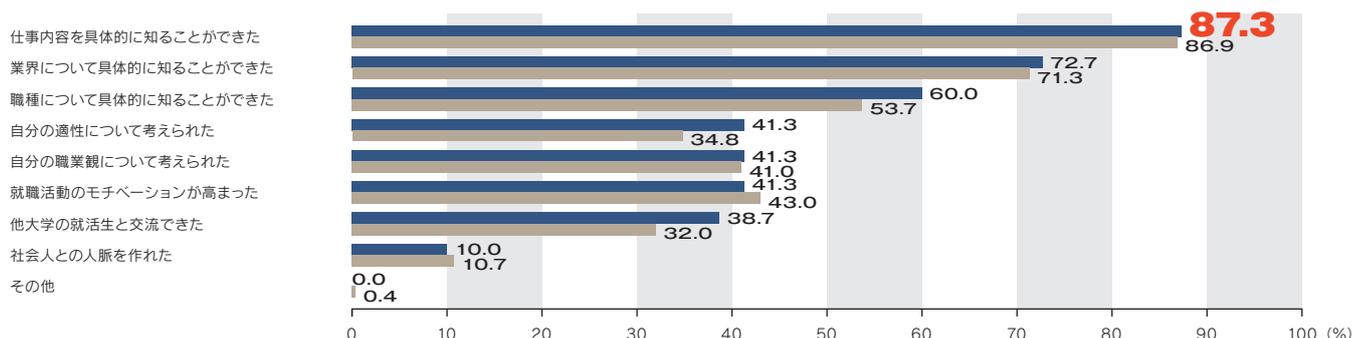
Q.4 | インターンシップ類に参加した理由は何ですか？



Q.5 | インターンシップに参加していない理由を教えてください。



Q.6 | インターンシップに参加してよかった点を教えてください。



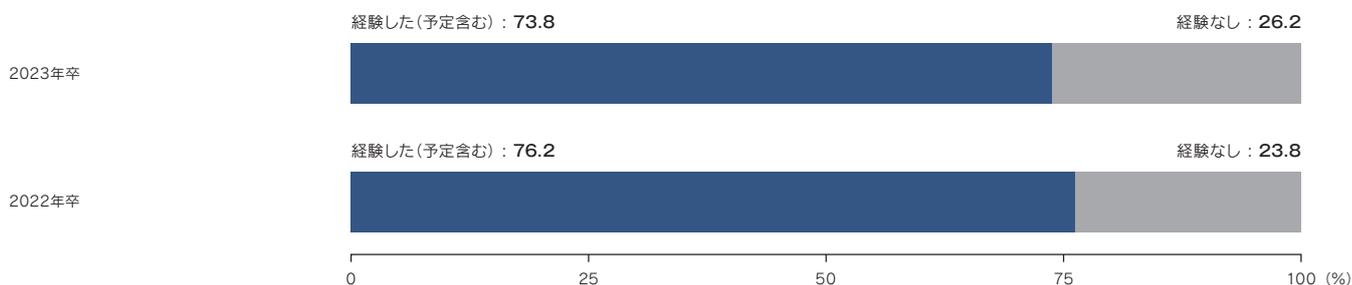
comment

インターンシップ類参加は71.1%(22卒)→78.5%(23卒)と増加。就職活動の入り口として、インターンシップ類が定着したことが伺える。参加の理由では「就職活動に有利だと思ったから」(70.2%)が最多で、学生は就活の一環としてインターンシップ類を認識してるようだ。

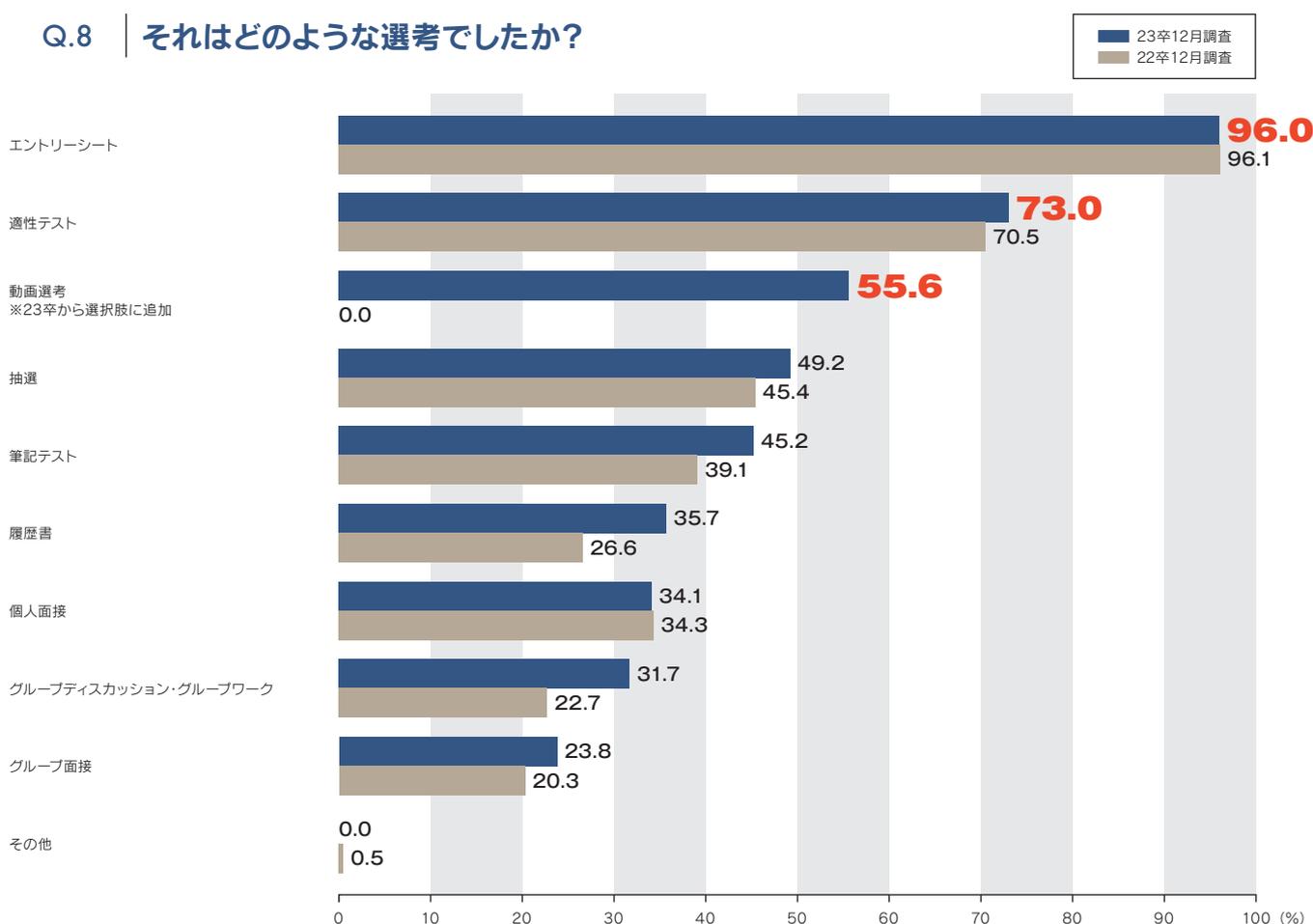
また、「社会に出る前に有益だと思ったから」、「インターンシップ類の内容に興味があったから」が大きく増加し、各社がブラッシュアップしたプログラムの魅力が、学生のインターンシップ類参加を後押ししているとも考えられる。半日や一日の短期間プログラムが増加した影響からか、平均参加社数は3.5社(22卒)→3.9社(23卒)となった。

2 インターンシップ類選考状況

Q.7 | インターンシップ類参加のための選考は経験しましたか？



Q.8 | それはどのような選考でしたか？

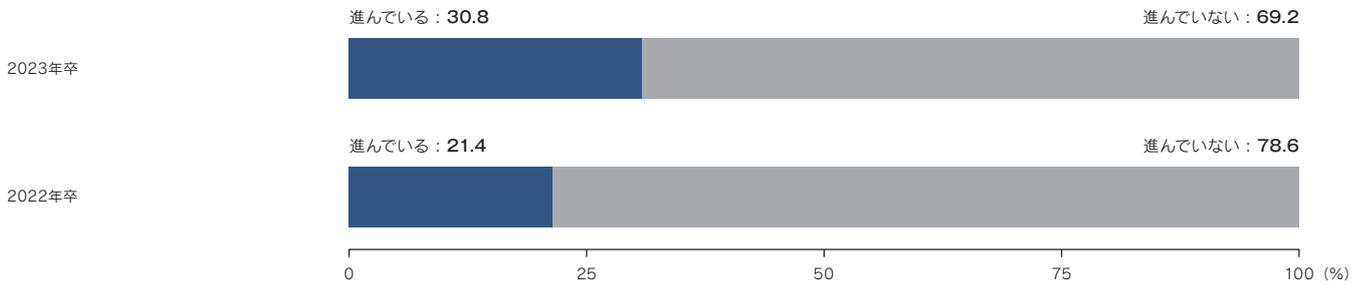


comment

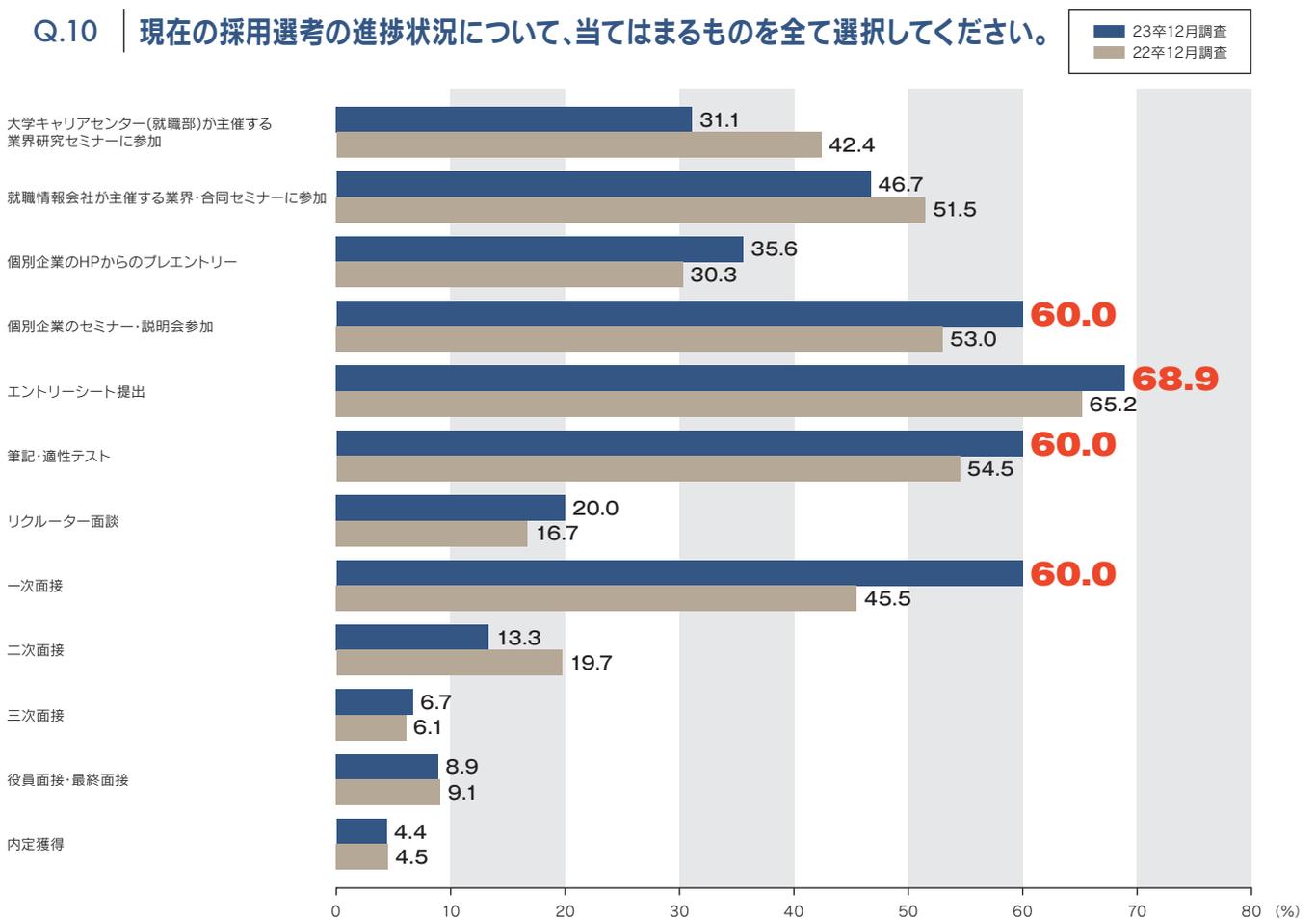
インターンシップ類参加のための選考について、「経験した」が76.2%(22卒)→73.8%(23卒)と減少。
選考方法として、「エントリーシート」(96.0%)、「適性テスト」(73.0%)、今年新たに選択肢に加えた「動画選考」(55.6%)の順になった。

3 選考状況

Q.9 企業の採用選考に進んでいますか？



Q.10 現在の採用選考の進捗状況について、当てはまるものを全て選択してください。

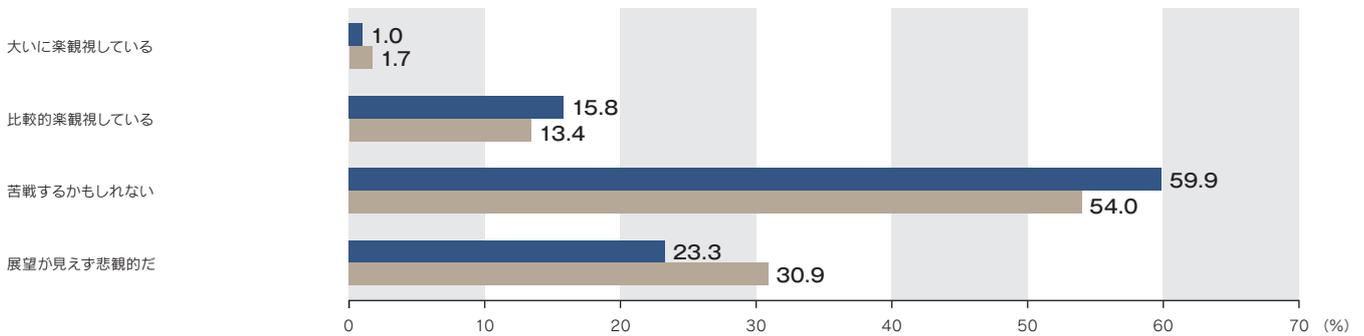


comment

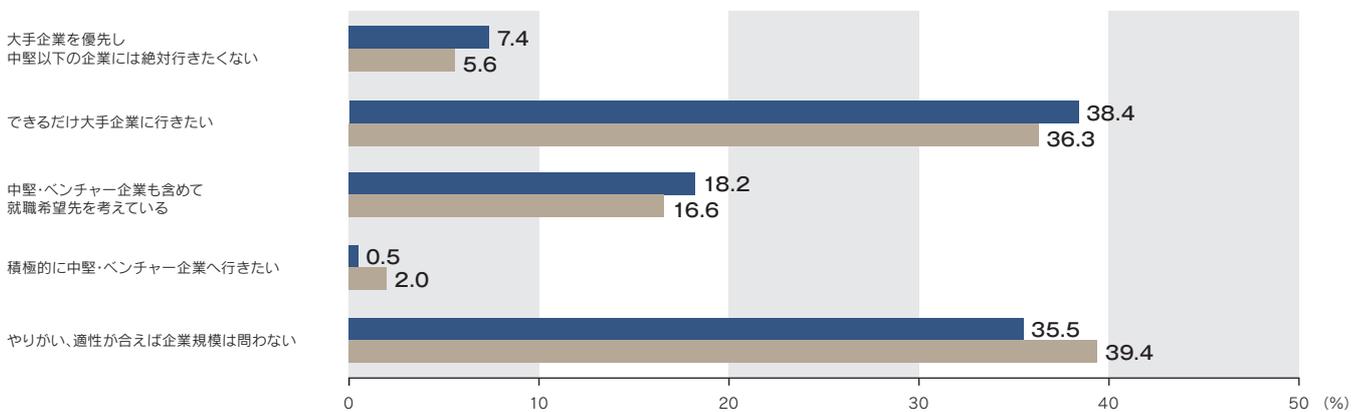
企業の採用選考に「進んでいる」と答えた学生は21.4%(22卒)→30.8%(23卒)と増加。「一次面接」は45.5%(22卒)→60.0%(23卒)と大幅にポイントアップ。一方、大学や就職情報会社主催のセミナー参加はポイントを下げ、就職活動の早期化が読み取れる結果となった。

4 就活観

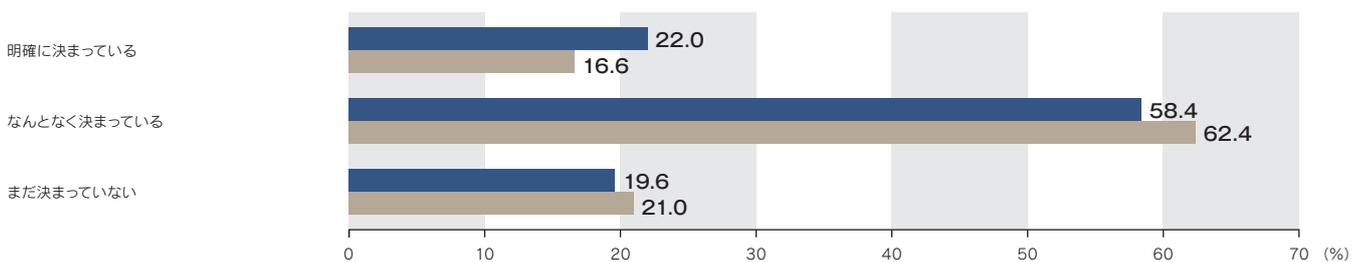
Q.11 | 就職活動に向けて、現在の考えに近いものをお答えください。



Q.12 | どんな企業に入社したいと思いますか？現在の考えに近いものをお答えください。



Q.13 | 志望業界は決定していますか？



comment

就活観においては、秋に緊急事態宣言も終了し、社会全体がコロナ禍前に戻ろうとする兆しが見えることから、「展望が見えず悲観的だ」は30.9%(22卒)→23.3%(23卒)と減少している。

しかし、入社したいと思う企業は「大手を優先」「できるだけ大手」42.0%(22卒)→45.8%(23卒)と増加。経済不安からやりがい・適性よりも大手で安定した企業を選ぶ傾向が見て取れる。

業界決定についても「明確に決まっている」「なんとなく決まっている」が79.0%(22卒)→80.1%(23卒)と早まっている。